

第57回(2007年度)自動車技術会論文賞受賞について
～論文「最新小型ディーゼル車の低温運転性に及ぼす燃料供給システムの影響」について共同受賞～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)が参画し、研究員を派遣している社団法人石油学会※1「ディーゼル車の燃料供給システム調査専門委員会」の論文「最新小型ディーゼル車の低温運転性に及ぼす燃料供給システムの影響」に対し、社団法人自動車技術会※2より「論文賞」を受賞し、5月24日(木)、その受賞式が開催されましたのでお知らせいたします。

「論文賞」とは、過去3年間に自動車工学または自動車技術の発展に寄与する論文を発表した個人会員および共著者に贈られる賞で、本論文は株式会社石油産業技術研究所※3の委託を受け、1998年から9年間行った石油学会の調査研究成果です。

ディーゼル車は排出ガス低減のため燃料の高圧噴射化が進み、併せて燃料供給システムの異物除去を目的としたフィルタの仕様変更なども行われています。ディーゼル車の低温運転性とは、エンジンの始動不良や走行不良など低温時に現れる現象であり、フィルタの仕様によって大きく影響されます。ディーゼル車の低温運転性を把握しておくことは、低温時の軽油の品質を確保する上で極めて重要であることから、本論文では、燃料供給システムと低温運転性の関係を調査し、その要因と具体的な悪化対策を明らかにする研究成果です。

また、受賞にあたり、「現状で考えうる広範囲なシステム・条件を含み、信頼性が高く、今後のディーゼル車の設計に一つの指針となる極めて有効性が高いものである」との高い評価をいただきました。

当社は、経営理念に「New ideas(新しい発想)」、「Environmental harmony(地球環境との調和)」掲げており、今後もたえず新しい発想で未来に挑戦し、地球環境と調和したビジネスを創造することで、人々から最も支持される総合エネルギー企業を目指してまいります。

※1 石油・天然ガス開発、石油・石油化学工業などについて産学両面にわたって幅広く活動を行っている国内で唯一の「石油」に関する学会で現在約5,000人の会員を擁している。

※2 自動車に係わる研究者、技術者および学生などの多彩な会員層から構成されている。個人会員は約35,000名、賛助会員(法人)は約500社。会員に情報交換、研究発表、内外技術者との交流の場を提供するため、講習会、シンポジウム、国際会議、展示会、見学会の開催、各種出版物の発行、自動車規格の制定、研究業績の表彰等を行い、技術者・研究者の育成に努めている。

※3 平成2年12月、石油連盟加盟26社(現在18社)の出資により設立され、自動車燃料、石油設備保安・管理、石油利用システム等の分野で技術開発、実証試験、調査事業に取り組んでいる。

記

1. 受賞内容

テーマ: 「最新小型ディーゼル車の低温運転性に及ぼす燃料供給システムの影響」

(掲載論文 自動車技術会論文集 Vol37.No6)

受賞者: 那須野 一八(当社 研究開発本部 中央技術研究所 燃料研究所)


他4名

2. 受賞式について

日時: 5月24日(木)表彰式 12:45～14:00

場所: パシフィコ横浜会議センター

以上

 「論文賞」を受賞した那須野社員
「論文賞」を受賞した那須野社員